

導線なく患者負担を軽減 新型ペースメーカー導入

釧路孝仁会記念病院

釧路孝仁会記念病院(釧路市愛国、斎藤孝次理事長)は、不整脈が起きる慢性除脈性心房細動などの患者のうち主に高齢者らの治療に、導線がなく心臓内部に直接留め置く「リードレスペースメーカー」を導入した。同病院によると、釧路・根室管内の医療機関では初の導入という。

(麻植文佳)

従来の一般的なペースメーカーは、高さ約4センチ、横約5センチ、厚さ約8ミリ、重さ21〜25グラムの楕円形。鎖骨の下に設ける皮下ポケットの中に植え込み、導線で心臓内部とつないで心臓の働きを助ける。

一方、リードレスペースメーカーは長さ約2.5センチ、直径約6ミリ、重さ約1.7グラムの円筒型。バッテリーや電子回路の小型化で本体も

いきいき
釧根

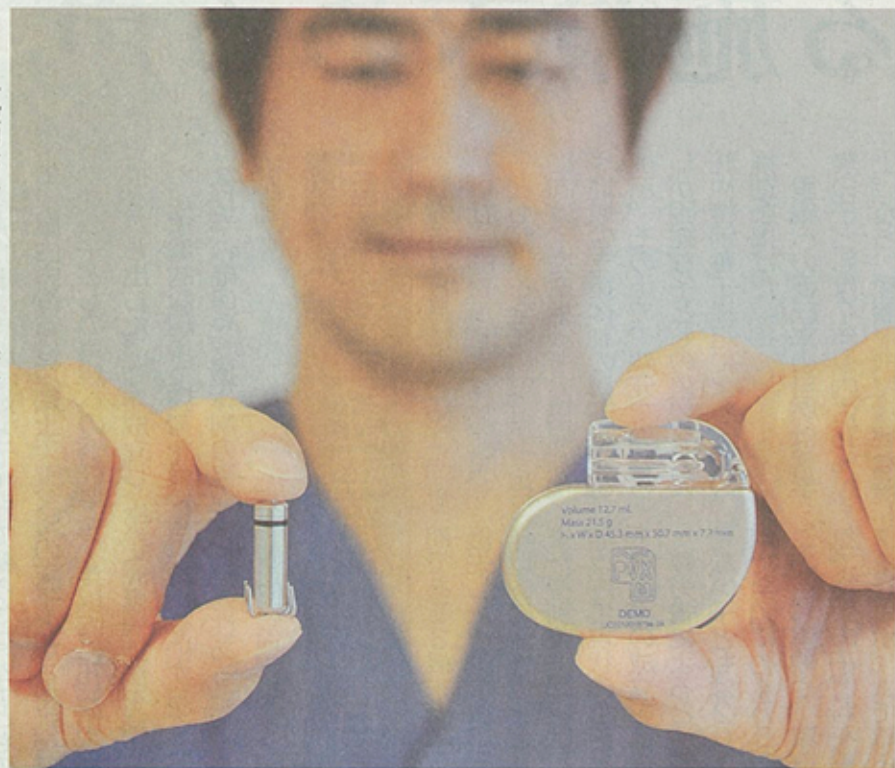
合併症や感染症のリスクも減少

小さくなった。太ももの付け根にある静脈から心臓まで通した管で心臓内部に送り込み、心臓の右心室内に押しつけるようにして留め置く。

手術時間が従来の1時間から約30分に短縮され患者の体力的負担が軽減される上、導線がないため合併症や感染症のリスクも減り、外見ではペースメーカーをつけていることが分からないのが特徴だ。

電池の寿命は約12年で、電池の期限が近づいたら新しいペースメーカーを留め置く。国内では9月から一部の病院で使えるようになった。保険適用で、手術費用は一般的なペースメーカーとほぼ同額という。

釧路孝仁会記念病院の下重晋也循環器内科統括部長は「高齢者や体力の乏しい患者さんに、より安心できる治療が施せる」と話している。



一般的なペースメーカー(右)とリードレスペースメーカー